

幸せ運ぶ美しき旋律

若手ピアニストとして、クラシックの魅力を伝えるため、加西市をはじめ精力的に活動されている加門隆太郎さんは現在33歳。自身の音楽哲学に基づき華麗な演奏に加え、甘いルックスと演奏の合間にある軽快なおしゃべりも人気の秘訣です。人生ピアノである加門さんの魅力を探ろうと、話を聞きました。



テレマン室内オーケストラニューイヤークンサートにソリストとして出演(写真・本人提供)

音楽一家に生まれ

1月5日、新春を迎えた市民会館の文化ホール。ピアノの音色とソプラノの声が響き渡りました。2年ぶりに開催された新年交歓会のオープニングアクトを務めました。父親が調律師、母親がピアノの先生という、まさに音楽一家に生まれ「物心ついたときから家の中にピアノがあつて。遊び道具がピアノみたいなところもあり、自然な流れで始めました」。チャームポイントの八重歯を覗かせながら、ピアノを始めたきっかけを話す加門さん。ご両親について「父は口数が多い方ではなく、ピアノに関しても何も言わないですね。傍観しているというか(笑)。母とはよく話しますし、いつも行動を共にしていました。ただ、ピアノに関してはさすがに厳しかったです」と教えてくれました。

ようで必然な成り行きで、ピアノの道に進み、そしてのめり込んでいきました。

息抜きはラーメン

「レッスンは嫌いでした」。3歳になると加門さんは母親と一緒に週1回、姫路の音楽教室に通うようになり、小学校から本格的にピアノを教わることになりました。「厳しい先生で、言われたことはできるように必死になって練習しました」。小学校から中学校にかけては、レッスンで怒られて、家でも母親に指導される、いわゆる板挟み状態だったようです。後になって母から「先生に叩かれるのを見るのがつらかったので、なんとか練習させた」と打ち明けられました。

担当の先生は何度か変わっていきます。「ピアノの弾き方は人それぞれ。幼いながらも自分に合った弾き方、考え方は持っていました」。複数の先生に指導されたら混乱を招くのが普通ですが、加門さんは「実践して身になったものは吸収する。合わない指導法はやらぬ」と決めていたそうで、どの先生が担当になっても困らなかつたといいます。

そんな加門少年の唯一の楽しみは山陽自動車道白鳥PAのトンこラーメンだったそうです。「レッスン中は息が詰まるくらい緊張感なんです。それが解き放たれたあとのラーメンは格別でした」。今でもここを通ると必ず立ち寄り寄って食べるそうです。「母と一緒に食べます。思い出の味ですね」。



新年交歓会をソプラノ歌手 儀間明日花さんと華々しく彩る

ピアノの道決意

キラリびと vol.10

加門隆太郎 Ryutaro Kamon

昭和63年生まれ。京都市立芸術大学卒業。4歳まで加西市で過ごし、その後加東市へ。平成15年兵庫県学生ピアノコンクール本選優秀賞、平成17年ヤマハヤングピアニストコンサート本選金賞など数々の賞を受賞。平成28年には播磨地域を拠点とする音楽家支援団体「ムーシケー」創設。他に、加西市音楽協会副会長、小野市エクラを拠点とする若手演奏家団体「ハーモニーエクラ」の代表も務める。現在、アスティアカさいにて「お昼のコンサート」事業を継続的に開催。

が弾きたいと思って選んだ曲だったそうです。

進む道が決まり、将来を見据えて京都市立芸術大学へ進学します。

地域と共に歩む

大学卒業後は、プロのピアニストとして



趣味の一つが大学時代から始めたダーツ。プロ級の腕前(写真・本人提供)

活躍する一方で、ピアノ講師としても指導にあたります。1歳半から70代という幅広い年代を教えているといい、「指導にはエネルギーがいりますが、時には自分の演奏のためにもなるんです。教えることで気付かされることも多いので楽しいですね」。心掛けていることは「うまくなるというより楽しく音楽をしてほしいというのが一番。音楽を好きになれる人を育てたいんです」と笑顔で話します。

音大を卒業してもプロとして活躍する人はほんの一握りの世界です。平成28年、播磨地域を拠点とする音楽家支援団体「ムーシケー」を創設。「何とか輝ける場を提供したい。それと、何百年も前から存在するクラシックの素敵な曲を、生の音色で皆さんに聴いてもらいたいんです」とその理由を語りました。大きな1回よりも、小さなコンサートをいろいろ

な場所というコンセプトで、加西市を中心にコンサートを開催し、毎回多くの人が楽しみにしています。

「クラシックが好きなのは決まっています。ファン層は凝り固まっているんです」と現状を語り、最近では、子どもたちにも楽しさを伝えるために、こども園に慰問演奏に行っているという加門さん。「たくさんの人にクラシックを届けたいし、小さい時から音楽の楽しさを知ってもらいたい。それが一番の目標です」と語ります。

これまでの音楽人生で完璧な演奏が出来たのは数回ほどだといいます。自身に厳しく鍛練を続けながらも、素敵な笑顔で、クラシックの未来と地域をつなぐ架け橋としてチャレンジを続けていきます。

すつきり かさい 広報 2月

表紙	01
キラリびと 加門隆太郎	02
特集	
令和4年成人式	04
市政情報	06
TOPICS	
加西市×PayPay 第5弾	06
北播磨日本酒かんぱい券	09
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	19
わくわく子育て情報	25
そうだ! 図書館へ行こう	26
おくやみ/各種相談	27
とびだせ! かさいっ子	28
みんなで使おう加西弁	

KASAI データバンク

R3.12.31 現在 (前月比)

人口 / 42,716人 (-81)

男 / 20,952人 (-56) 女 / 21,764人 (-25)

世帯数 / 18,188 (-26)

12月の出生数 / 10人 死亡数 / 58人

● 2/9 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)